



なみ き

埼玉県議会議員



並木まさとし

無所属
県民会議
SAITAMA

発行者
連絡先

埼玉県議会議員 並木正年
〒365-0038 鴻巣市本町 3-2-19-B
TEL 541-7777 / FAX 543-8000

日頃の活動は
ホームページで!

並木まさとし

検索

namikimasatoshi@soleil.ocn.ne.jp



台風19号による被害への対応を中心に231億円の補正予算



元荒川の堤防嵩上げ

市内の北側を流れる1級河川の元荒川は台風19号の記録的な雨量によって数カ所で越水しました。現状では堤防の高さが一定ではないため、三谷橋(安養寺)~四郎兵衛橋(常光)間の5.8km区間(3区間に分けて)で嵩上げ工事を進めます。今回の補正予算は工事期間や工法は未定ですが、ゼロ債務負担行為として通年の工事が可能となるよう配慮されています。

三谷橋~郷地橋間 800m・郷地橋~笠原大橋間 2,000m・笠原大橋~四郎兵衛橋間 3,000m



東京オリンピック・パラリンピック競技大会観戦支援事業

県内高校生・小・中学校生向けに観戦チケットを確保(予算額 255,037,000円)

* 学校連携観戦チケット 99,635枚 (予算額 184,315,000円)

(市町村立学校分は県と市町村が各1/2負担 県立学校・私立学校分は県が全額負担)

* 関係自治体チケット 6,768枚 (予算額 70,263,000円) 市町村や競技団体が全額負担

* ホストタウン向けチケット 60枚 (予算額 459,000円) 県が全額負担



河川機能の回復

初当選以来、河川が持つ本来の機能を回復させるべく、河川中の雑木の伐採と浚渫(底面をさらって土や砂などを取り去ること)を毎年要望しています。

これは地域要望もさることながら河川が増水するたび大量のビニール袋が雑木にからまる光景を目の当たりにしてきたためです。

一昨年度と昨年度は三谷橋から郷地橋までの間を中心に免許センター裏の伐採を完了しています。国・県は平成30年7月豪雨(西日本豪雨)の被害によって、伐採だけではなく伐根(根こそぎ抜く)の方針を基本として予算の確保に努めています。

平均気温が上昇し続ける近年、これまでの想定を超える雨量が危惧されますが、県土に占める河川面積割合が日本一である本県だからこそ河川改修の取り組みを加速させる必要があると感じます。

災害に負けない観光需要創造事業（予算額 95,726,000 円）

産業労働企業委員会の審査では台風 19 号によって県内の宿泊施設にキャンセル(4,000 件以上)が相次いだことから災害救助法の適用市町村における 1 泊以上の宿泊費用の一部補助を決定しました。限られた期間の補助になりますが埼玉観光を再発見してみたいはいかがでしょうか

予算の範囲内で 1 月上旬から 2 月下旬までの期間を補助予定としています

| 旅行・宿泊料金（1 泊） | 1 人あたりの補助額 | 1 人あたりの限度額 |
|----------------------|----------------|------------------------------------|
| 1 人 6,000～10,000 円未満 | 1 泊あたり 3,000 円 | 日本人観光客 15,000 円 外国人観光客 50,000 円 |
| 1 人 10,000 円以上 | 1 泊あたり 5,000 円 | |

* 日本人観光客は 3 連泊まで、外国人観光客は 10 連泊までの補助

県内の災害救助法の適用市町村

さいたま市、川越市、熊谷市、川口市、行田市、秩父市、所沢市、飯能市、本庄市、東松山市、春日部市、狭山市、深谷市、上尾市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、八潮市、富士見市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、ふじみ野市、三芳町、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、美里町、神川町、上里町、寄居町、東秩父村の 48 市町村

「埼玉県 ふっこう割」検索

直接、宿泊施設にお問い合わせ

埼玉県以外の県でも対象になりますので、ふっこう割が適用できる他県の情報を注視してください。



NPO 法人このとりを育む会が管理・協力する吹上地域の冬水田んぼに越冬のためシベリアからオオハクチョウが飛来しています。オオハクチョウは青森や新潟まで飛来することはありますが、埼玉・鴻巣まで飛来することは稀だと伺っています。飛来場所は県の推奨品種米である「彩のきずな」を無農薬で作る田んぼで、冬でも水深 15 センチを保つことで様々な生き物が生息できる環境を創出しています。

少し灰色がかった幼鳥は体つきこそ親鳥と変わらない大きさですが、親鳥の後ろをついて回る仕草はとても愛くるしく感じます。近年、環境に対する評価や取り組みが重視されていますが、県では温室効果ガス排出量を 2005 年の 4,296 万 t から 2020 年に 3,380 万 t へと 21%削減する目標値を掲げています。また、太陽光発電などの再生可能エネルギーや PM2.5 対策など、あらゆる世代が環境を意識することで近い将来コウノトリが鴻巣の空を舞う日が近づくと感じます。



フラワーセンターで 12 月恒例の花の品評会に審査員として出席しました。花の購買に関する意識調査によると、過去 1 年間に花(切花)を購入した方は約 63%で、内訳として自宅用に購入する予算は 500 円から 1,000 円が 36%、プレゼント用は 2,000 円から 3,000 円が 43%との調査結果が出ています。

また、購入場所として花屋や園芸店が最多ですが、自宅用にはスーパーやホームセンター、プレゼント用にはインターネットショップの傾向があるようです。花を購入しなかった理由としては必要性や習慣がないとする回答が 64%、飾る場所がない 20%、手入れが面倒 17%のように、いかに消費者の意識を改革するかが重要だと感じます。花の街「このす」市民はこの調査よりも購買率や消費価格などが高いと感じますが、自宅玄関前の装飾や市が開催するイベントなどで更に花に触れ合う機会を作ってみてはいかがでしょうか。



昭和45年(1970)鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校(サッカー部)/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣東小PTA副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回このす花火大会代表/鴻巣市消防団第2分団員(23年目)/鴻巣市議会議員2期/H27年～埼玉県議会議員/産業労働企業委員/自然再生循環型社会対策特別委員/家族・妻・長女・長男・愛犬レオ